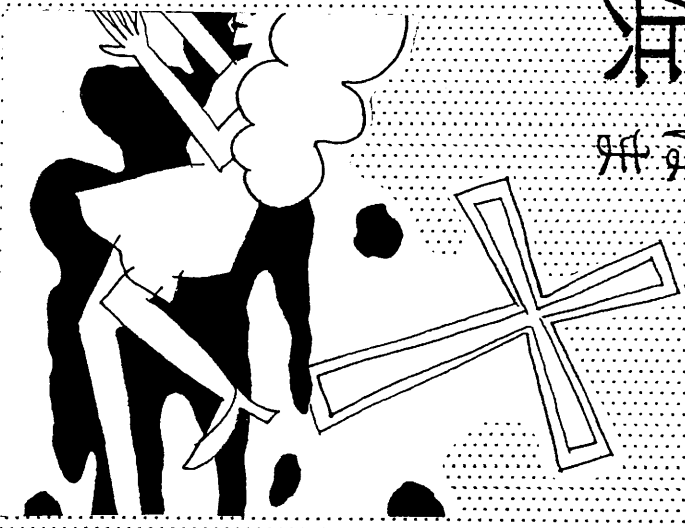


JGR  
レベル B

# 懺悔

上原謙

## ハムレットの



原作：ヘレン・ルサタス

翻案：原田照子

挿絵：国府田晶子

『横浜ミステリー』は Oxford University Press の許可を得て、Helen Brooke 作 *Mystery in London* (Oxford Bookworms Starters 250 headwords)を日本語版グレイデイド・リーダー用に翻案したものです。

この日本語版グレイデイド・リーダーはJGRプロジェクトグループが開発した試作品です。販売を目的としたものではありません。

© 2003 by JGR プロジェクトグループ

原作 げんさく  
ヘレン・ブルック

翻案 ほんあん  
原田照子 ほんだてるこ

挿絵 さしえ  
国府田晶子 くにふたあきこ

登場人物 とうじょうじんぶつ  
・銀田二郎（横浜警察の仕事を手伝っている）  
ぎんだじろう ぎんはまけいさつ しごと てつだ

橋本（横浜警察の警部）、由紀（若いきれいな女の人）、  
はしもと よこはまけいさつ けいぶ ゆき わか おんな ひと

早苗（由紀の友達）、源（船の人）、船長、  
さなえ ゆき ともだち げん おね ひと せんちやう

年寄りの男、年寄りの女、若い男、若い女  
としよ おとこ としよ おんな わか おとこ わか おんな

場所 ばしょ  
横浜、横浜の港、宮島丸、教会、菊屋、若葉町、桜通り  
よこはま よこはま みなと みやしまる きやうかい きくや わかばちやう さくらどおり

その隣に赤いドアの家がある。

早苗の家はどれだろう。

あなたは初めにどの家のドアをノックしますか。

◇ 白いドアの家。次は十六へ。

◇ 青いドアの家。次は二十一へ。

◇ 赤いドアの家。次は二十六へ。

十一月の終わりの寒い夜。横浜の港の近くの山の上。古い、大きい家。

部屋には明かりがついている。大きいテールと大きいすがある。そのいすにあなたは座っている。あなたの名前は銀田二郎。前は東京の警察で働

いていた。警部だった。たくさんの難しい事件の犯人を捕まえた。今は警部ではない。でも、難しい事件があつた時横浜警察の橋本警部の仕事を手伝う。

あなたは窓から横浜の港を見ている。船の明かりがきれいだ。今日は静かな一日だった。あなたは大きいノートに、「静かな一日が終わる。」と書いた。その時、だれかがドアをノックした。

「はい。宮島丸は横浜の港に

とまっています。すぐイノンドへ行きます。」

あなたは早く横浜の港を捜さなくてはいけない。

◇次は十二へ。

## 二十五

あなたは橋本警部の車を使う。

由紀の友達の早苗は若葉町にすんでいる。若葉町は港教会の南の方だ。あなたは、橋本警部の車で若葉町へ行く。あなたは早苗の家を探す。

白いドアの家がある。その隣に青いドアの家がある。

入れた。

◇次は三十二く。

三十四

年寄りが海を見ている。

あなたは年寄りに話す。

「こんばんは。」

年寄りはおあなたを見る。

あなたは聞く。

「宮島丸を知っていますか。」

トントン。

あなたは壁の時計を見る。十時半。

「はい。」あなたは答える。

ドアが開く。

横浜警察の橋本警部が入ってくる。橋本警部はあなたの友達だ。同じ大学

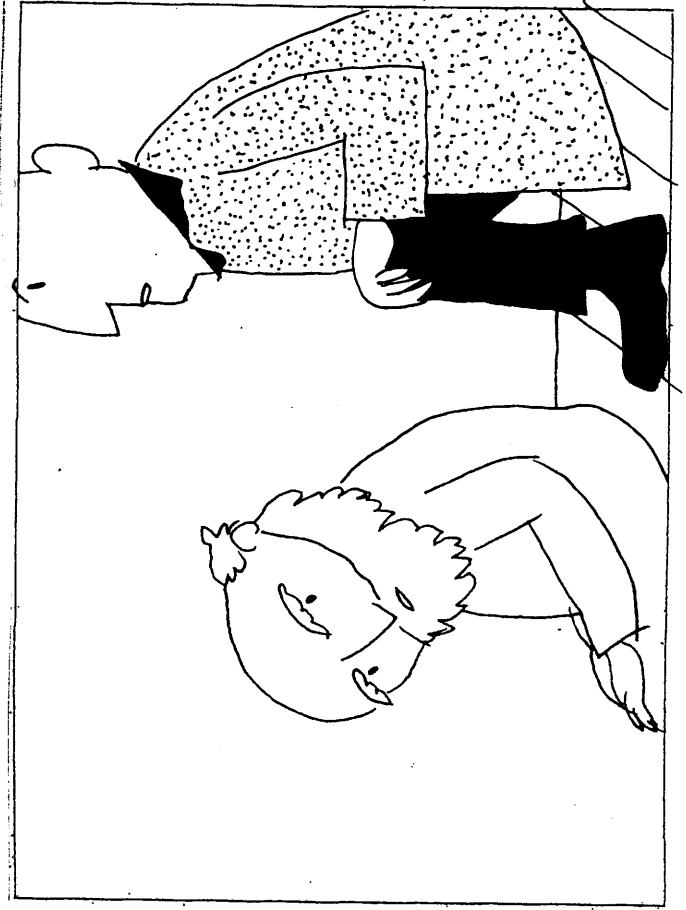
で勉強した。

「銀田さん、事件です。私と一緒に港教会に来て下さい。」

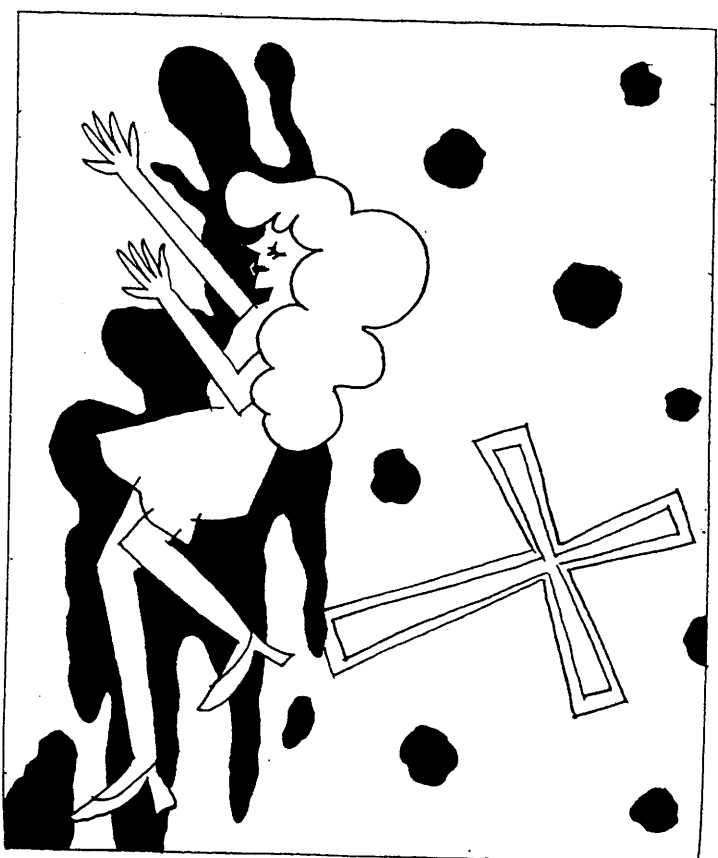
あなたは橋本警部の顔を見る。きっと大きい事件だ。

「教会の前の道に女の人が倒れています。血がたくさん出ています。

まだ、生きています。きっと、また港教会殺人犯です。」

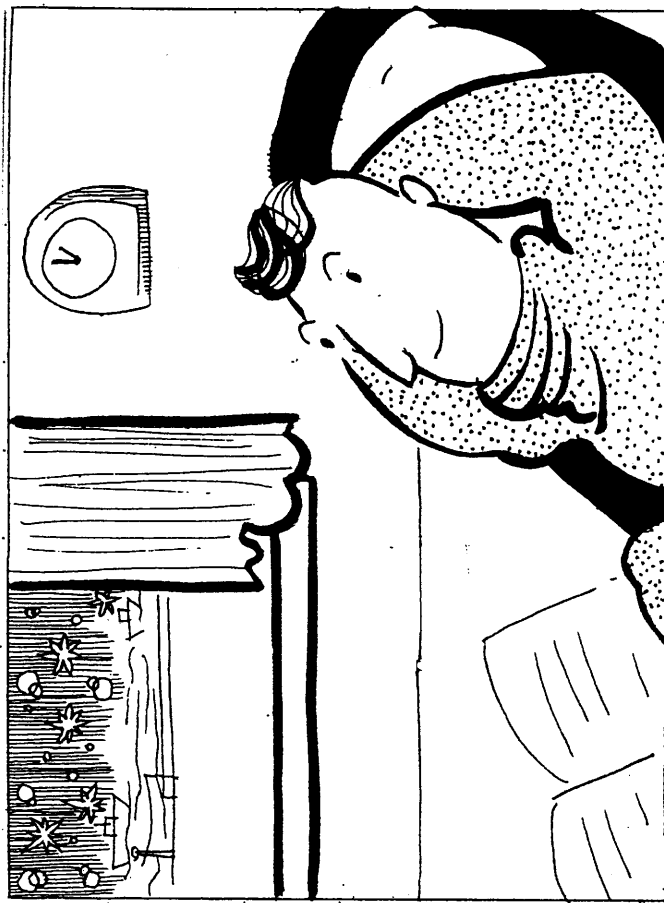


船長が黒い上着の男の前に立つ。あなたは男の手からナイフをとる。  
 おとこ せんちょう くる うわぎ  
 として、男を捕まえる。黒い上着の男は港教会殺人犯だった。小  
 おとこ みなと きょうかい ざつじんはん ちい  
 さい船が宮島丸のそばに来た。警察の船だ。あなたは港教会殺人犯  
 みなと きょうかい ざつじんはん  
 と一緒に警察の船に乗る。そして横浜の港へ行く。港には橋本警部が  
 いっしょ けいさつ ふね の よこはま みなと い 港には橋本警部が  
 いる。他の警察の人たちもいる。あなたは橋本警部と警察の人たちに言う。  
 ひと ほか けいさつ ひと みなと きょうかい ざつじんはん ひと  
 「この男の名前は源です。港教会殺人犯です。」  
 おとこ なまえ げん みなと きょうかい ざつじんはん  
 源の顔はとても怖い。源は逃げたい。でも、無理だ。あなたは橋本警部に  
 げん かお とても こわい げん に 逃げたい。 でも、無理だ。 あなたは橋本警部に  
 港教会殺人犯を渡す。橋本警部は港教会殺人犯を警察の車の中に  
 みなと きょうかい ざつじんはん わた はしもと けいぶ みなと きょうかい ざつじんはん けいさつ くるま の中に



大きい<sup>おお</sup>いすに<sup>すわ</sup>座る。テーブルの上<sup>うえ</sup>のノートには「静<sup>しず</sup>かな<sup>いちにち</sup>一日が終<sup>お</sup>わる」と書<sup>か</sup>いてある。あなたはそれを消<sup>け</sup>す。そして、

「港<sup>みなと</sup>教会<sup>きょうかい</sup>殺人犯<sup>ざつじんはん</sup>を捕<sup>つか</sup>まえた。」と書<sup>か</sup>く。壁<sup>かべ</sup>の時計<sup>とけい</sup>を<sup>み</sup>見る。二<sup>に</sup>時<sup>じ</sup>だった。窓<sup>まど</sup>からは港<sup>みなと</sup>の船<sup>ふね</sup>の明<sup>あ</sup>かりが見<sup>み</sup>える。横<sup>よこ</sup>浜<sup>はま</sup>の町<sup>まち</sup>は静<sup>しず</sup>かだ。



あなたは壁<sup>かべ</sup>にかかっている上着<sup>うわぎ</sup>を取<sup>と</sup>る。

あなたは上着<sup>うわぎ</sup>を着<sup>き</sup>る。

◇次<sup>つぎ</sup>は十八へ。

二

あなたは由紀<sup>ゆき</sup>の家<sup>いえ</sup>にいる。女<sup>おんな</sup>の人<sup>ひと</sup>が入<sup>はい</sup>ってくる。

「だれ？こ<sup>なに</sup>こで何<sup>なに</sup>をしているの？」その女<sup>おんな</sup>の人<sup>ひと</sup>が聞<sup>き</sup>く。

あなたは女<sup>おんな</sup>の人<sup>ひと</sup>に由紀<sup>ゆき</sup>のこ<sup>はな</sup>を話<sup>はな</sup>す。

「ひどい。」

「由紀<sup>ゆき</sup>の友<sup>とも</sup>達<sup>だち</sup>をだれか知<sup>し</sup>りませんか。」あなたは聞<sup>き</sup>く。



女おんなの人は考かんがえる。

「由紀ゆきの一番いちばんいい友達は早苗さなえよ。若葉町わかばちやうに住すんでいるわ。由紀は男おとこの友達ともだちもいるわ。」

「男おとこの友達ともだち？」

「ほら、この写真しやしんの人ひと。私わたし、この人嫌いときらいだわ。」

あなたは写真しやしんの男おとこを見るみ。写真しやしんの男おとこはイヤリングおとこをしている。

◇あなたはまた菊屋きくやに行いつて、他の人ほかのひとと話はなす。次つぎは十へ。

◇あなたは若葉町わかばちやうに行いつて、早苗さなえを捜さがす。次つぎは三十五へ。

## 三十二

あなたは橋本警部はしもとけいぶの車くるまで港みなとの近ちかくの山やまの上うへの古ふるい大おおきい家いえへ帰かえる。

「銀田ぎんたさん、本当ほんとうにどうもありがとございました。」

「いや、橋本はしもとさん、大変たいへんな夜よるでした。でも、港教会殺人犯みなときやうかいきつじんはんが捕つかまつて、

本当ほんとうによかつたです。」

「じゃ、これこれで、失礼しつれいします。」

「氣きをつけて。」

橋本警部はしもとけいぶは車くるまで山やまを下おりて行いく。

あなたは部屋へやに入はいる。明あかりをつける。上着うわぎを壁かべにかける。

あなたは最後の、黒い上着の源に話す。

「由紀を知っていますか。」あなた

は聞く。

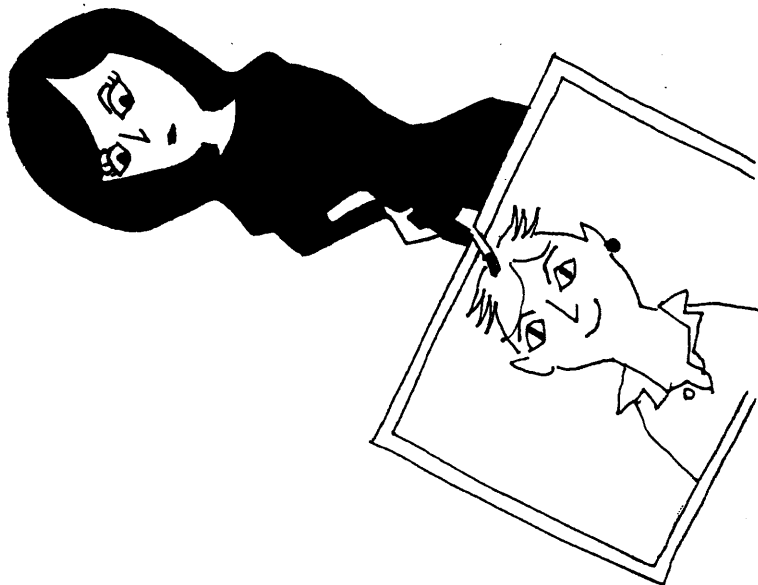
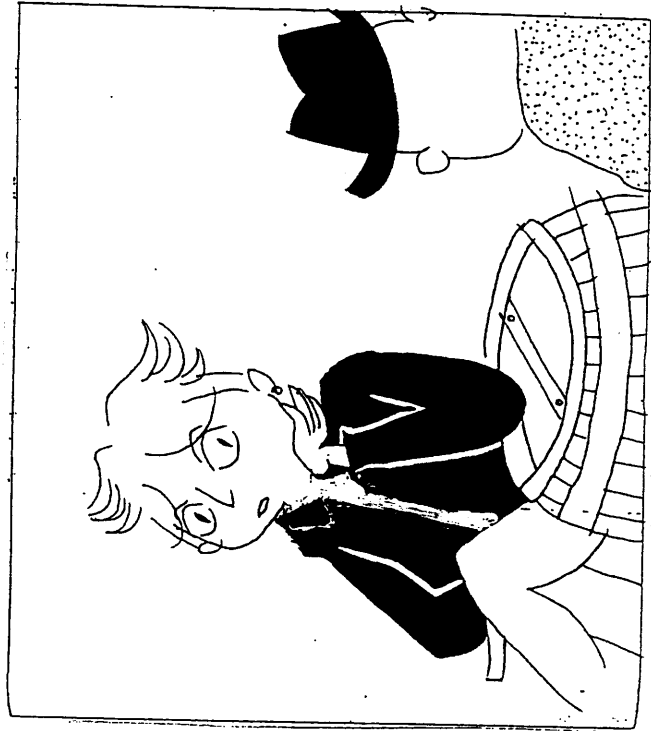
「由紀？ 私は、知らない。」源は言う。

この源はイヤリングをしている。

由紀の家の写真の男だ。

男の上着の中に何かある。

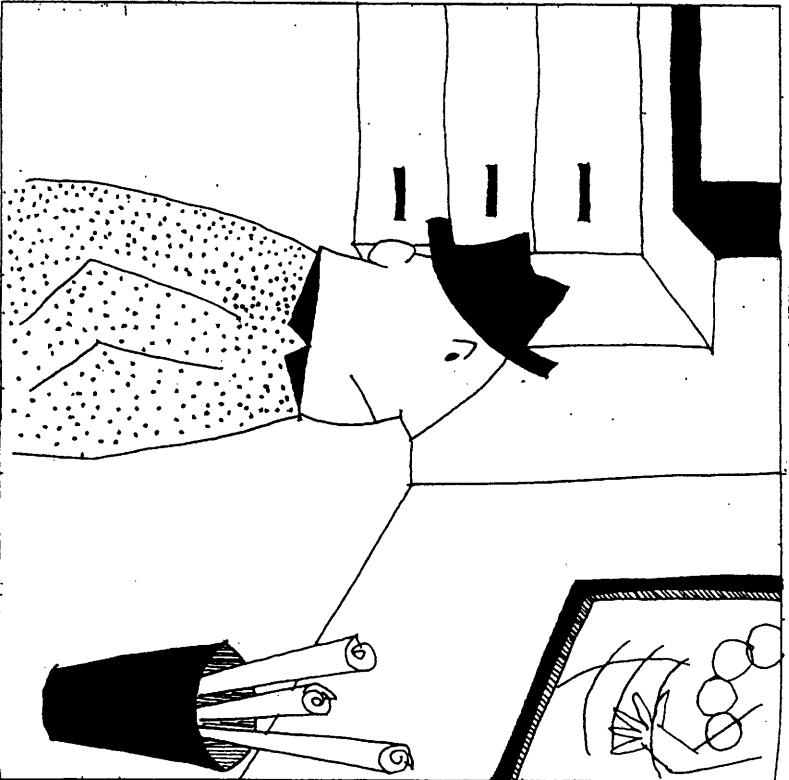
◇次は二十七へ。



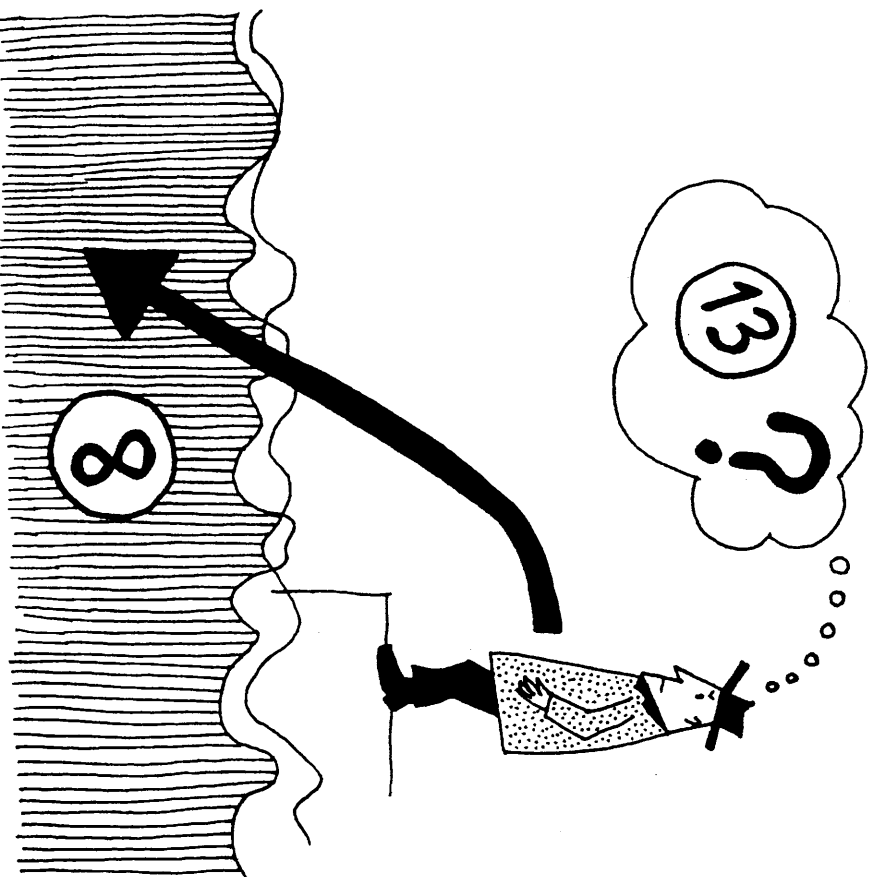
宮島丸は横浜の港を出て行く。

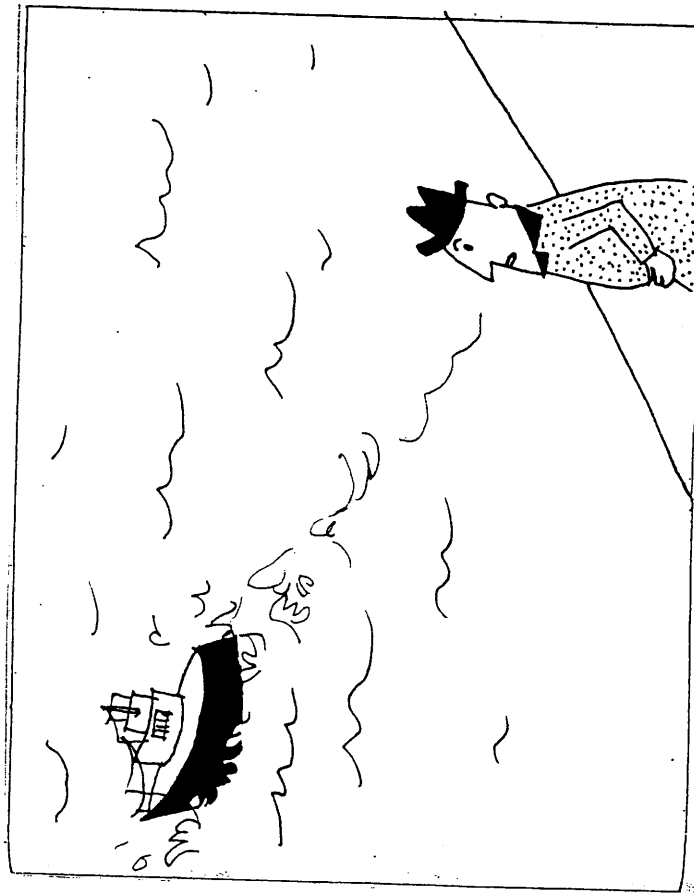
二十

あなたは桜通りへ行つて、  
 その人たちに聞く。  
 「由紀の家はどこですか。」  
 あなたは由紀の家を見つ  
 ける。家の中に入る。明かり  
 をつけて、家の中のものを  
 一つ一つよく見る。  
 ◇次は二く。



あなたは早く  
 宮島丸に乗つて、  
 源と話したい。  
 でも、目の前は海だ。  
 ◇あなたは海に入つて、  
 泳ぐ。次は八へ。  
 ◇あなたは他のやり方で  
 船に乗ることを考える。次は十三く。





四

年寄りの男<sup>としよ おとこ</sup>はいすに座<sup>すわ</sup>って、お酒<sup>さけ</sup>を飲<sup>の</sup>んでいる。

あなたは年寄りの男<sup>としよ おとこ</sup>のところ<sup>い</sup>へ行く。

「道<sup>みち</sup>に女<sup>おんな</sup>の人<sup>ひと</sup>が倒<sup>たお</sup>れています。あの

女<sup>おんな</sup>の人<sup>ひと</sup>の名<sup>な</sup>前<sup>まえ</sup>を知<sup>し</sup>っていますか。」

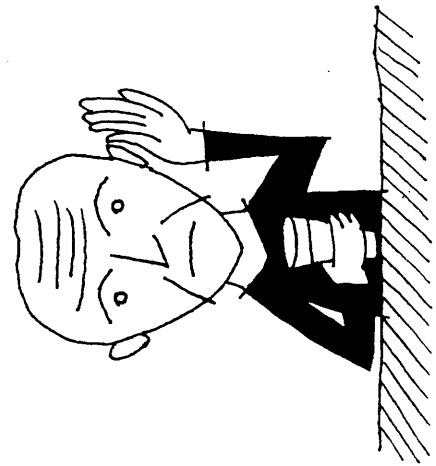
あなたは年寄りの男<sup>としよ おとこ</sup>に聞<sup>き</sup>く。

「……………」

あなたはもう一<sup>いっ</sup>度<sup>ど</sup>聞<sup>き</sup>く。

年寄りの男<sup>としよ おとこ</sup>は答<sup>こた</sup>えない。

年寄りの男<sup>としよ おとこ</sup>はあな<sup>か</sup>たの顔<sup>お</sup>を



見る。そして、自分の耳に手をおく。年寄りの男は耳が悪い。だからあなた  
たの音が聞こえない。

◇次は十へ。

## 五

あなたは橋の上を歩いて海の方へ行く。とても寒い。宮島丸は見えない。  
小さい船に男がいる。そして、橋の終わりのところに年寄りがいる。

年寄りは海を見ている。

◇あなたは船の男に聞く。次は二十四へ。

◇あなたは年寄りに聞く。次は三十四へ。

◇あなたは、もう一度菊屋に行つて、他の人に話す。次は十へ。

◇あなたは、若葉町へ行つて、早苗に会う。次は三十五へ。

## 二十九

あなたは左の方へ行く。船が見える。その船には「宮島丸」と書いてある。  
でも、宮島丸は港にとまつていない。宮島丸はゆっくり動いている。

宮島丸は今、港を出て行く。

◇あなたは船に乗りたい。次は三へ。

◇あなたは病院へ行つて、由紀に源のことを聞く。それから、インドの警察に手  
紙を書いて、源のことを頼む。次は二十一へ。

◇ 次<sup>つぎ</sup>は三十三く。

## 二十八

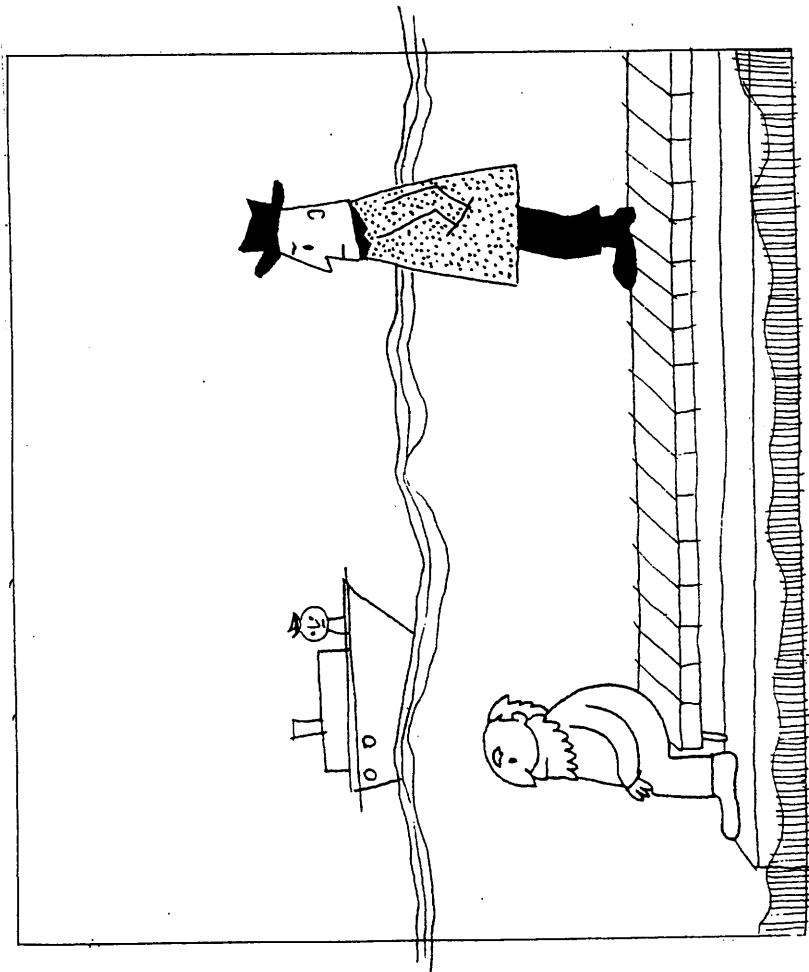
若い女<sup>わか おんな</sup>は若い男<sup>わか おとこ</sup>と話<sup>はな</sup>している。あなたは若い女<sup>わか おんな</sup>のところへ行<sup>い</sup>く。

「あの女<sup>おんな</sup>の人の名<sup>ひと</sup>前<sup>なまえ</sup>を知<sup>し</sup>っていますか。」あなたは聞<sup>き</sup>く。その若い女<sup>わか おんな</sup>は道<sup>みち</sup>に出<sup>で</sup>る。そして、倒<sup>たお</sup>れている女<sup>おんな</sup>の人の人<sup>ひと</sup>を見<sup>み</sup>る。

「私<sup>わたし</sup>はこの女<sup>おんな</sup>の人の名<sup>ひと</sup>前<sup>なまえ</sup>は知<sup>し</sup>りません。でも、早苗<sup>さなえ</sup>はこの女<sup>おんな</sup>の人の友<sup>ひと</sup>達<sup>とも</sup>です。早苗<sup>さなえ</sup>に聞<sup>き</sup>いて下<sup>くだ</sup>さい。」

「早苗<sup>さなえ</sup>さんはどこに住<sup>す</sup>んでいますか。」あなたは聞<sup>き</sup>く。

「早苗<sup>さなえ</sup>は若葉町<sup>わかばちょう</sup>に住<sup>す</sup>んでいます。」



六

若い男はドアの近くに立っている。あなたは若い男のところへ行く。そして、若い男に話す。その男は道に出る。そして、倒れている女の人を見える。

「この女の人は、多分、由紀です。かわいそうに。」その若い男は言う。

「この女の人の家を知っていますか。」あなたは若い男に聞く。

「ああ、多分、由紀の家は桜通りです。」

◇あなたはもう一度菊屋へ行つて、他の人と話す。次は十く。

◇あなたは桜通りへ行く。次は三十く。

七

二十七

「上着の中にある物を見せて下さい。」

男は黒い上着の中から

何か出した。ナイフだ。

血が付いている。この男

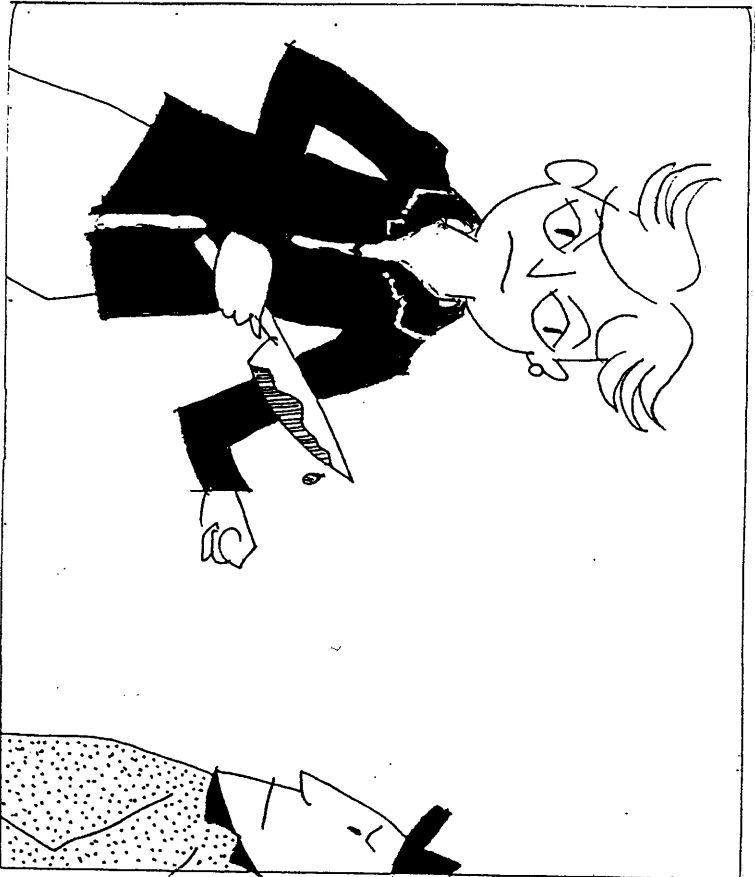
が港教会殺人犯だ。

男は右手にナイフを持

つた。そして、あなたの

方に来た。危ない！

あなたは右に動く。



二十六

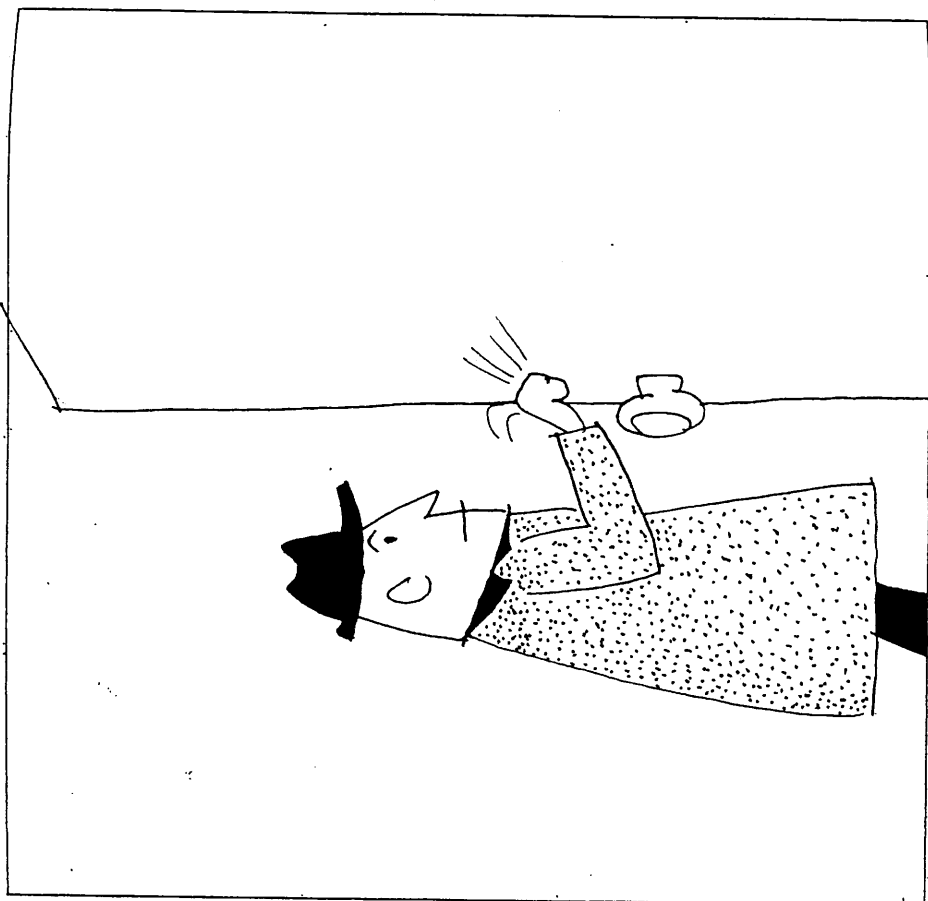
あなたは赤い<sup>あか</sup>ドアを

ノックする。

トントン。

だれもない。

◇次<sup>つぎ</sup>は三十五へ。



39

宮島丸<sup>みやじままる</sup>の船長<sup>せんちょう</sup>が三人<sup>にん</sup>の源<sup>げん</sup>を呼ぶ。

三人<sup>にん</sup>の源<sup>げん</sup>が来る。はじめの源<sup>げん</sup>は

背<sup>せ</sup>が高い。次<sup>つぎ</sup>の源<sup>げん</sup>はめがねを

かけている。最後の源<sup>さいご</sup>は黒い

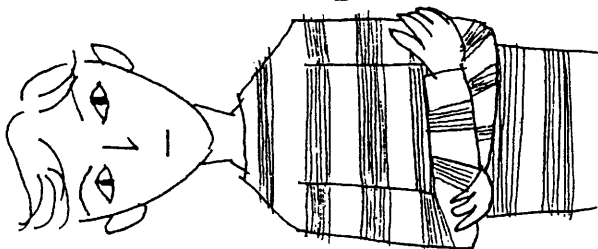
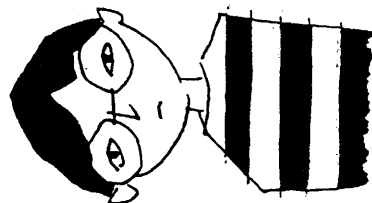
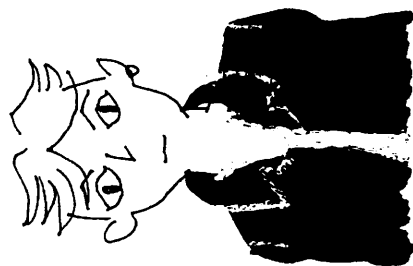
上着<sup>うわぎ</sup>を着<sup>き</sup>ている。

あなたはどの源<sup>げん</sup>と話<sup>はな</sup>したいですか。

◇はじめの源<sup>げん</sup>。次<sup>つぎ</sup>は十七へ

◇次<sup>つぎ</sup>の源<sup>げん</sup>。次<sup>つぎ</sup>は二十三へ。

◇最後の源<sup>さいご</sup>。次<sup>つぎ</sup>は三十一へ。



14



あなたは海の中にいる。  
水はとても冷たい。

あなたは船の方に泳ぐ。

船はとても速い。だめだ

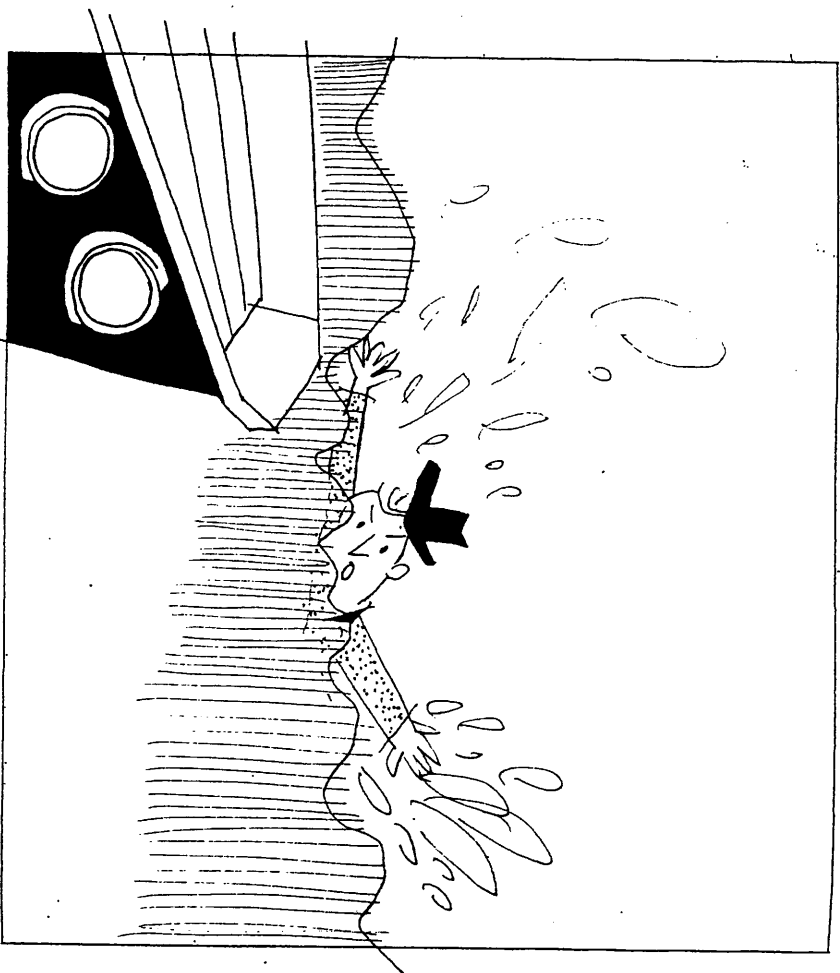
あと五分で、宮島丸は

横浜の港の外へ出る。

そしてインドへ行く。

あなたはとても寒い。

◇次は二十一へ。



自転車は見えない。

港教会殺人犯は

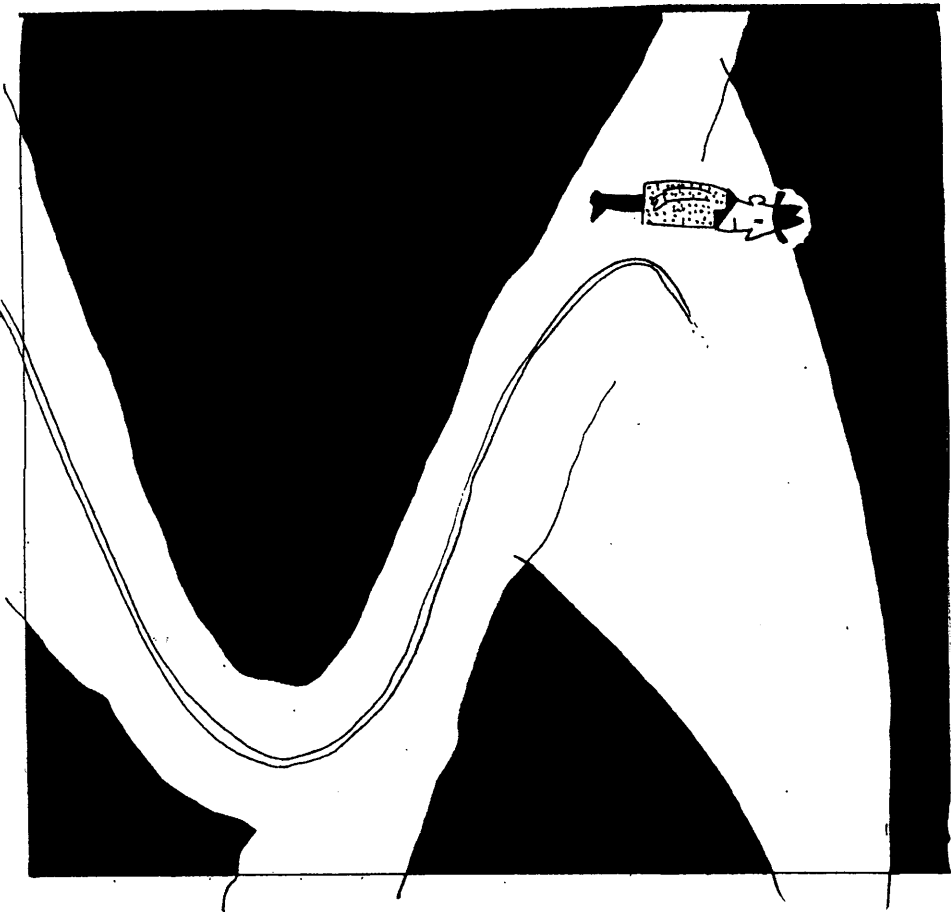
どちらへ逃げたの

だろう。あなたは

もう一度事件の

場所へ行く。

◇次は十八へ。



◇次は五へ。



二十五

あなたは自転車<sup>じてんしゃ</sup>のタイヤの線<sup>せん</sup>を見る。タイヤの線<sup>せん</sup>は大きい道<sup>みち</sup>まである。あなたはタイヤの線<sup>せん</sup>について、大きい道<sup>みち</sup>まで行く。そこで終<sup>お</sup>わりだ。もうタイヤの線<sup>せん</sup>は分<sup>わ</sup>からない。あなたは右<sup>みぎ</sup>の方<sup>ほう</sup>を見る。自転車<sup>じてんしゃ</sup>は見<sup>み</sup>えない。左<sup>ひだり</sup>の方<sup>ほう</sup>を見る。

37

九

あなたは、早苗<sup>さなえ</sup>に由紀<sup>ゆき</sup>のことを話<sup>はな</sup>す。港<sup>みなと</sup>教会<sup>きょうかい</sup>殺人犯<sup>さつじんはん</sup>のことも話<sup>はな</sup>す。

「由紀<sup>ゆき</sup>は、私<sup>わたし</sup>のとてもいい友達<sup>ともだち</sup>なの。」早苗<sup>さなえ</sup>は泣<sup>な</sup>いている。

「由紀<sup>ゆき</sup>は病院<sup>びょういん</sup>へ行<sup>い</sup>きましたか。」早苗<sup>さなえ</sup>は聞<sup>き</sup>く。

「はい。病院<sup>びょういん</sup>へ行<sup>い</sup>きました。きつと大丈夫<sup>だいじょうぶ</sup>です。」あなたは言<sup>い</sup>う。

「かわいそう」早苗<sup>さなえ</sup>が言<sup>い</sup>う。早苗<sup>さなえ</sup>は続<sup>つづ</sup>ける。

「でも、由紀<sup>ゆき</sup>は男<sup>おとこ</sup>の友達<sup>ともだち</sup>がいるわ。」

「男<sup>おとこ</sup>の友達<sup>ともだち</sup>? それは、だれ?」あなたは聞<sup>き</sup>く。

「船<sup>ふね</sup>の人<sup>ひと</sup>よ。船<sup>ふね</sup>で働<sup>はたら</sup>いている人<sup>ひと</sup>。名前<sup>なまえ</sup>は源<sup>げん</sup>。源<sup>げん</sup>はよく桜<sup>さくら</sup>通<sup>と</sup>りの

16

由紀の家にいるわ。源の船は、多分、今、横浜に来ているわ。」

◇あなたは源に会いたい。だから港へ行く。次は十四へ。

◇あなたは由紀のことをもっと知りたい。だから桜通りの由紀の家へ行く。次は

十九へ。

十

菊屋は小さい日本料理のレストランだ。店の中は明るくて、きれいだ。

お客さんが四人ぐらいいる。年寄りの男、若い男、年寄りの女、

若い女。あなたは教会の前の道に倒れている女の人のことを聞きたい。

あなたは初めにだれに聞きますか。

「この源は今日の夜ずっと私と一緒にいました。仕事のことを話  
していました。」

その男は港教会殺人犯ではなかった。

◇次は七へ。

二十四

あなたは船の男に話す。

「こんばんは。宮島丸を知っていますか。」

船の男はあなたを見る。

「私はインドから来ました。」その男は言う。

「私は、日本語は分かりません。」

あなたは、次の、めがねをかけている源に話す。

「由紀を知っていますか。」

「知らないねえ。」

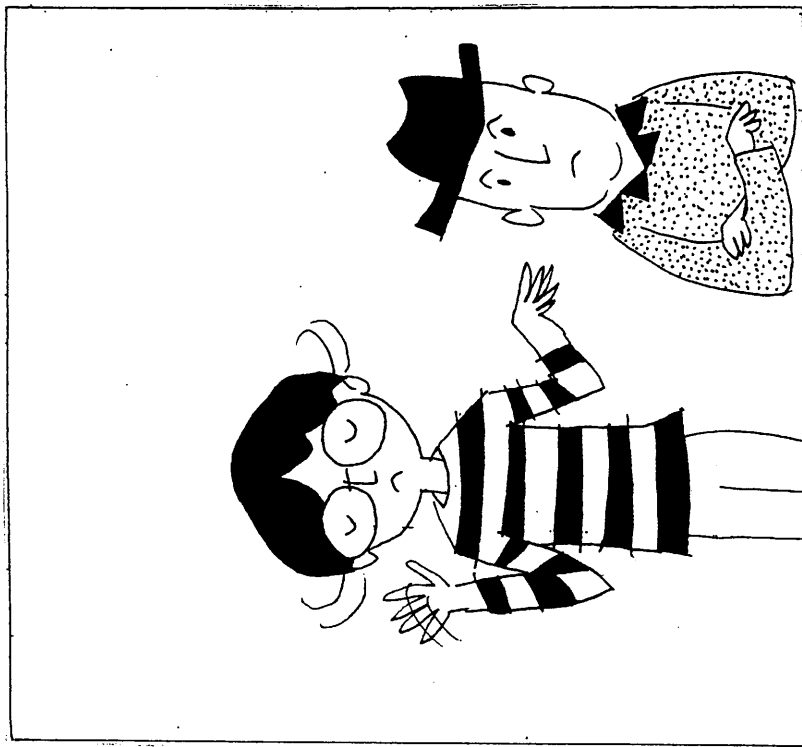
「今日の夜九時ごろ、

何をしていましたか。」

「船長と話していたよ。」

あなたは船長の顔を見る。

船長は言う。



◇あなたは年寄りの男に話す。

次は四へ。

◇あなたは若い男に話す。

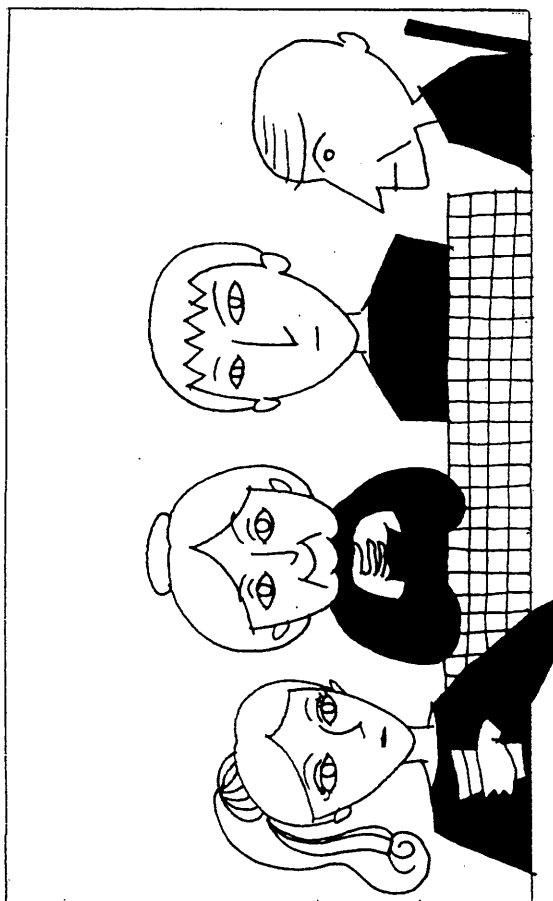
次は六へ。

◇あなたは年寄りの女に話す。

次は十五へ。

◇あなたは若い女に話す。

次は二十八へ。



船で働いている男はあなたを見る。

「源？」とその男は言う。「その名前の

人は船にたくさん乗っている。この船に

もいる。きつと一つの船に、一人源が

いるさ。」

あなたは源の船の名前を知らない。

あなたは車に乗る。桜通りの由紀の家へ

行く。そして、源の船の名前を探す。

◇次は十九へ。

港 教会殺人犯は

逃げた。

では、もう一度

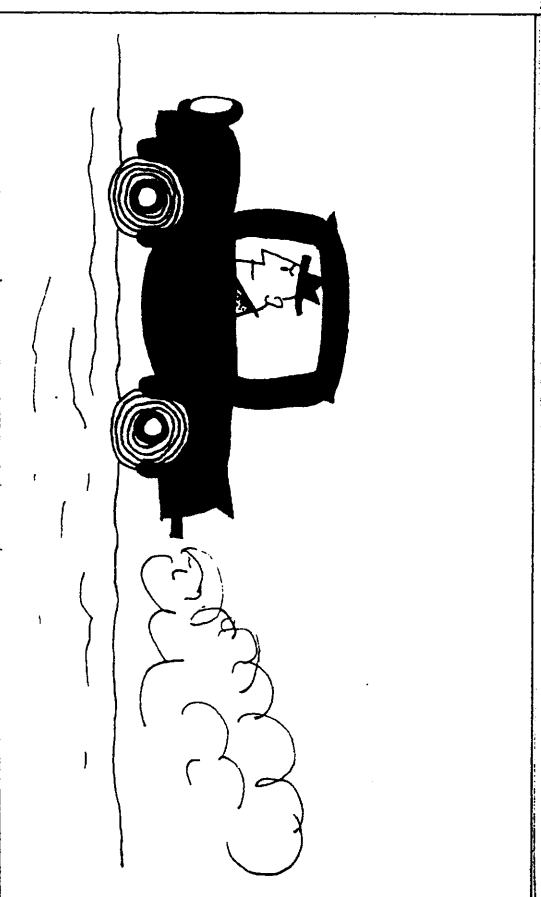
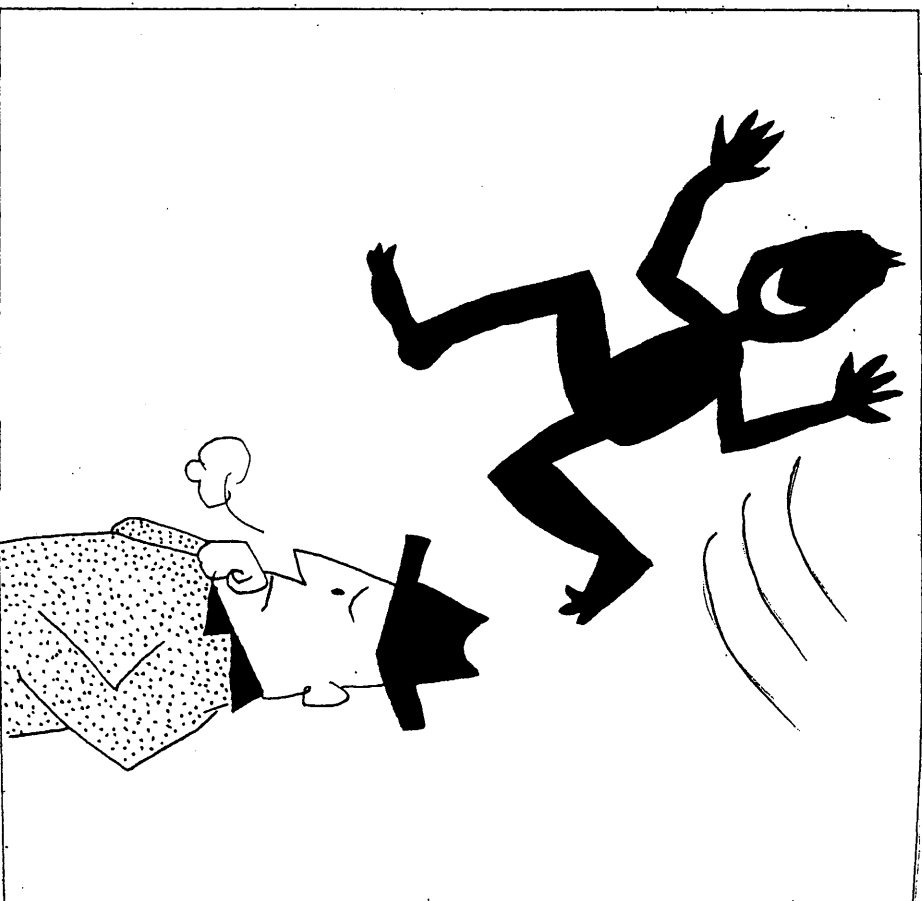
初めから。

今度はもつと、

上手に捜して、

捕まえて下さい。

◇もう一度しく。



二十一

あなたは青いドアをノックする。  
トントン。

年寄りがドアを開ける。

「早苗さんを探しています。」

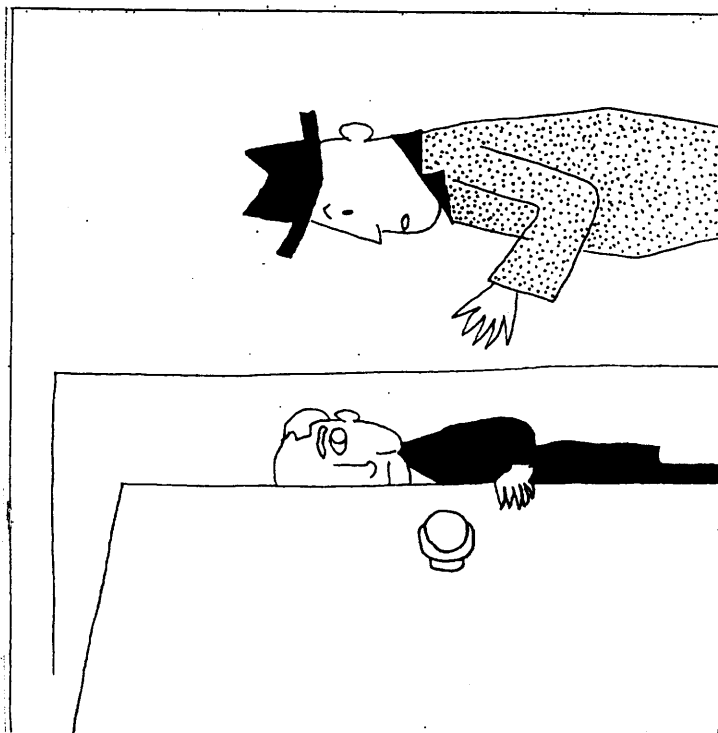
あなたは言う。

「早苗さんはこの家にはいな

いよ。」その年寄りと言う。

「多分、白い家に住んでいるよ。」

◇次は一六へ。



33

十二

あなたは横浜の港に来た。横浜の港は大きい。港は風が強くて、

とても寒い。橋が見える。大きい船や小さい船がたくさんある。

あなたは早く宮島丸を見つけない。宮島丸にはきつと源がいる。

早く源を捕まえたい。

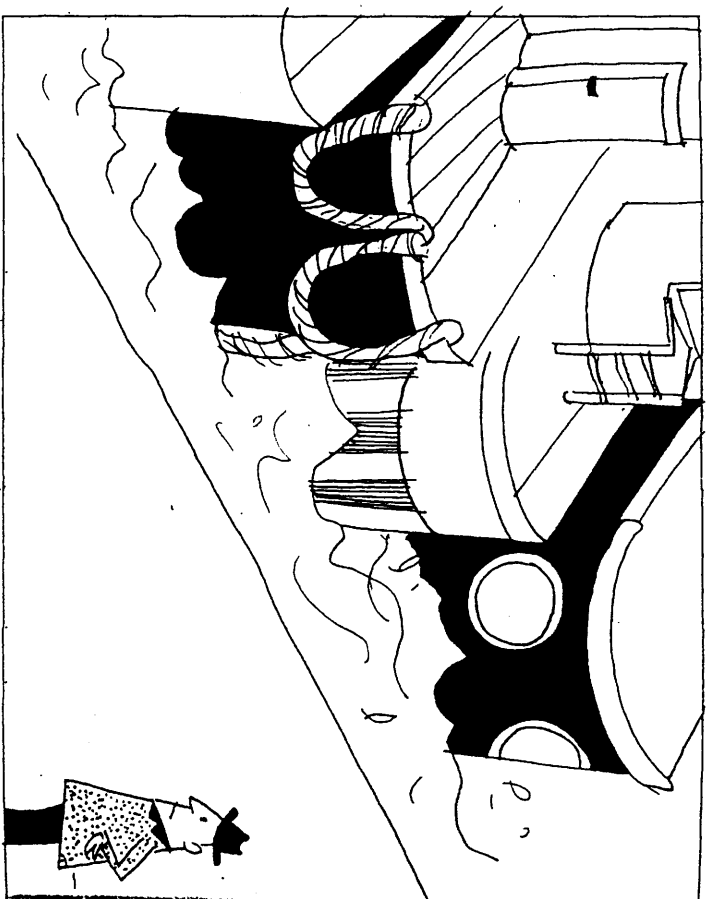
あなたは宮島丸を探す。

◇あなたは橋の上を歩いて海の方へ行く。次は五へ。

◇あなたは右へ行く。次は二十へ。

◇あなたは左へ行く。次は二九へ。

20



源が由紀を切ったのか。源が港教会殺人犯なのか。あなたは横浜の港

へ行って、宮島丸の源を捜す。

◇次は十二へ。

二十

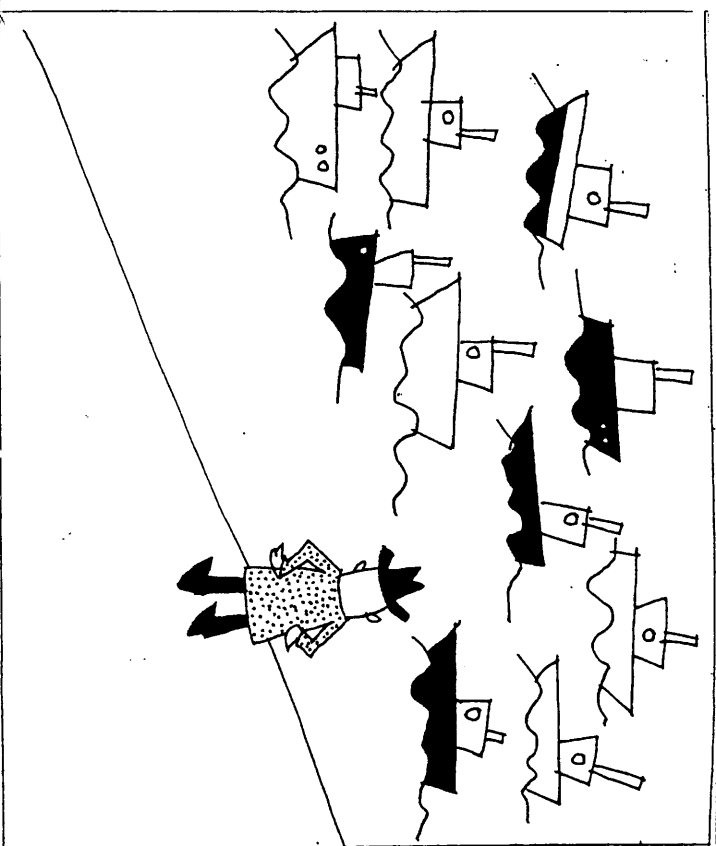
あなたは右の方へ行く。

船がたくさんある。

あなたは船の名前を読む。

宮島丸はない。

◇もう一度十二へ。



あなたは由紀の家に入る。明かりをつける。テーブルの上にきれいな花がある。その前に手紙がある。あなたはその手紙を読む。

由紀  
私の船はすぐインドへ行きま  
す。30日の夜9時に、横浜  
教会の前で会って下さい。  
大切なことを話します。  
11月29日  
宮島丸  
源

港には橋がある。あなたは橋の上を走る。宮島丸が橋の下に来た。

あなたは橋から宮島丸に跳ぶ。あなたは船長を探す。船長がいた。

「この船にいる男と話したいです。」あなたは言う。

「その男の名前は源です。」

「なぜ会いたいんだ？」船長は聞く。

「多分、源は港教会殺人犯です。」

「この船には三人、源がいる。」船長は言う。

「三人に会いたいです。お願いします。」あなたは頼む。

◇次は七く。



あなたは橋本警部の車で横浜の港へ行く。そして、由紀の友達の源を探す。船がたくさんある。船の明かりがきれいだ。船で働いている人たちがまだたくさんいる。あなたは車を降りる。船で働いている一人の男に聞く。「すみません。源を知っていますか。」源はどこにいますか。」

◇次は十一へ。

が倒れている。若いきれいな女の人だ。血がたくさん出ている。死んでいる？ いや、生きている。でも、話すことができない。

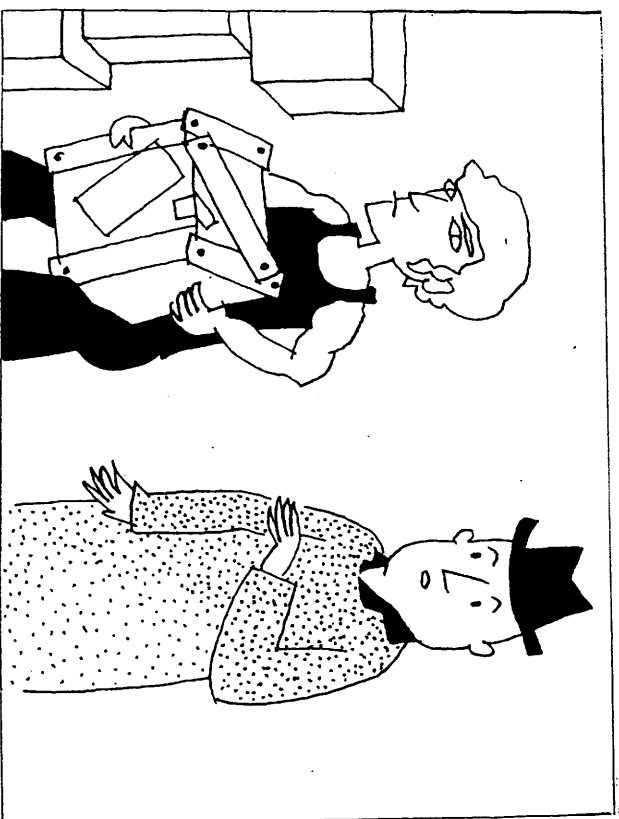
あなたは女の人が倒れている道を見る。

道に線が二本ある。この線は、自転車のタイヤだ。港教会殺人犯は自転車に乗っていた？

◇あなたは道の二本のタイヤの線について行く。次は二十五へ。

◇あなたは菊屋の中に入る。あなたはその店の中にいる人と話したい。

次は十へ。



警察は港教会殺人犯を早く捕まえたかった。一生懸命捜した。でも、捕まえることができない。はじめの事件から、もう、一年になる。四人の女の人が死んだ。そして、今日また？

あなたは橋本警部の車に乗った。車はとても速かった。港教会の前で車を降りた。教会の前で警察の人たちがあなたを待っていた。

「銀田さん、ここにきて下さい。」

教会の近くに菊屋という店がある。店には明かりがついている。店の前に警察の人がいる。店の人とお客さんもいる。教会の前の道に、女の人

## 十五

年寄りの女は店の中で座っている。あなたは店の中に入る。年寄りの女のところへ行く。年寄りの女に話す。年寄りの女は立って、外へ出る。あなたも外へ出る。年寄りの女は、倒れている女の人を見る。

「この人は、由紀よ。かわいそうに。」年寄りの女は言う。

「この人の家を知っていますか。」あなたは聞く。

「はい。桜通りに住んでいますよ。」

「桜通りのどこですか。わかりますか。」あなたは聞く。

「それは分からないわ。でも、由紀は本当にかわいそう。」

◇あなたはもう一度菊屋へ行つて、他の人と話す。次は十へ。

◇あなたは桜通りへ行く。次は三十へ。

## 一六

あなたは白いドアをノックする。トントン。若い女の人がドアを開ける。

その若い女の方は青い服を着ている。

「早苗さんですか。」あなたは聞く。

「はい。」

「あなたは由紀さんの友達ですか。」

「はい。友達です。」早苗は答える。

## 十八

港教会は横浜の港の近くにある古い教会だ。日曜日の朝、

教会の前を通ると、きれいな音楽が聞こえる。

去年の十二月の寒い夜に、この教会で大変なことがあった。若いきれいな女の方が死んだ。だれかがナイフでその女の人を切った。その若いきれいな女の方は教会の階段で死んでいた。血がたくさん出ていた。そして、三月にも、六月にも、八月にも、教会の近くで若いきれいな女の方が死んだ。新聞には「港教会殺人事件」というニュースが出た。

港教会殺人犯はナイフで若い女の人を切る。

十七

あなたは、はじめの背<sup>せ</sup>が高<sup>たか</sup>い源<sup>げん</sup>に話<sup>はな</sup>す。

「由<sup>ゆき</sup>紀<sup>き</sup>を知<sup>し</sup>っていますか。」

「知<sup>し</sup>らない。」

「今<sup>きょう</sup>日<sup>にち</sup>、ど<sup>どこ</sup>こにいましたか。」

「ず<sup>み</sup>つと、宮<sup>みや</sup>島<sup>しま</sup>丸<sup>まる</sup>で働<sup>はたら</sup>いて  
いたよ。」

その男<sup>おとこ</sup>は港<sup>みなと</sup>教<sup>きょう</sup>会<sup>かい</sup>殺<sup>ころ</sup>人<sup>じん</sup>犯<sup>はん</sup>  
ではなかつた。

◇次<sup>つぎ</sup>は七<sup>しち</sup>へ。



27

「悪<sup>わる</sup>いニュースです。」あなた<sup>い</sup>は言<sup>い</sup>う。

「えっ。由<sup>ゆき</sup>紀<sup>き</sup>が何<sup>なに</sup>か。」

「だれか<sup>ゆき</sup>が由<sup>ゆき</sup>紀<sup>き</sup>さん<sup>さん</sup>を

ナイフ<sup>き</sup>で切<sup>き</sup>りました。

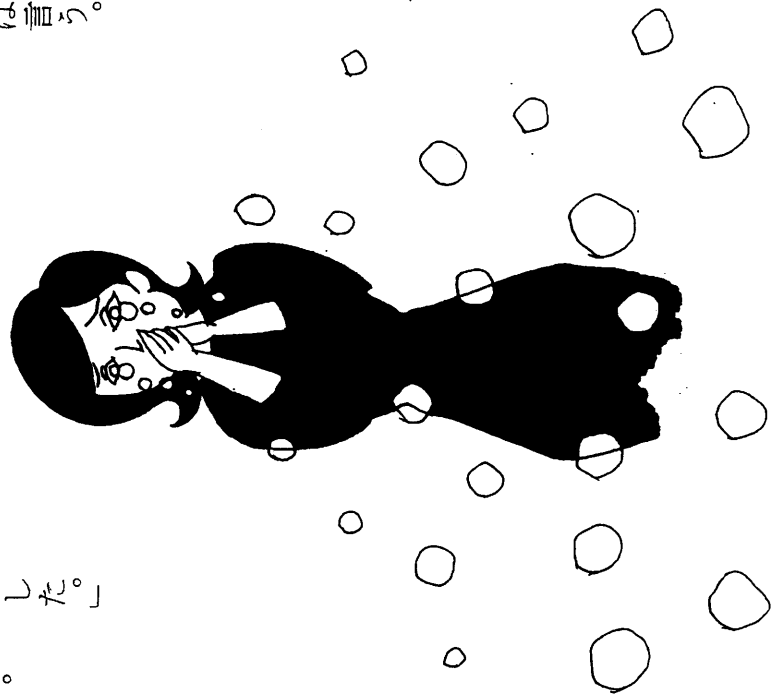
多<sup>た</sup>分<sup>ぶん</sup>、港<sup>みなと</sup>教<sup>きょう</sup>会<sup>かい</sup>殺<sup>ころ</sup>人<sup>じん</sup>犯<sup>はん</sup>です。

由<sup>ゆき</sup>紀<sup>き</sup>さん<sup>さん</sup>は生<sup>い</sup>きていま<sup>い</sup>す。

でも、血<sup>ち</sup>がとて<sup>ち</sup>もた<sup>ち</sup>くさん<sup>ち</sup>出<sup>で</sup>ました。」

「どう<sup>どう</sup>して…」早<sup>さ</sup>苗<sup>なえ</sup>は泣<sup>な</sup>き出<sup>だ</sup>す。

◇次<sup>つぎ</sup>は九<sup>きゅう</sup>へ。



26